

のりみが行く!!

横浜市中期4か年計画2014~2017 ~人も企業も輝く横浜へ~の原案が完成!



計画の構成 未来のまちづくり戦略

戦略1

『あらゆる人が力を発揮できるまちづくり』

戦略3

『魅力と活力あふれる都市の再生』

戦略2

『横浜の経済的発展とエネルギー循環都市の実現』

戦略4

『未来を支える強靱な都市づくり』

取組姿勢

計画の推進にあたっては、現場主義の徹底とおもてなしの精神を引き継ぎ実践していくとともに、優先順位を明確化し、困難な課題にも既成概念にとらわれない柔軟な発想で果敢に挑んでいきます。この3つの視点を重視して取り組んでいくことで、課題解決の新たな成功モデルを生み出していきます。

都市環境の大きな変化

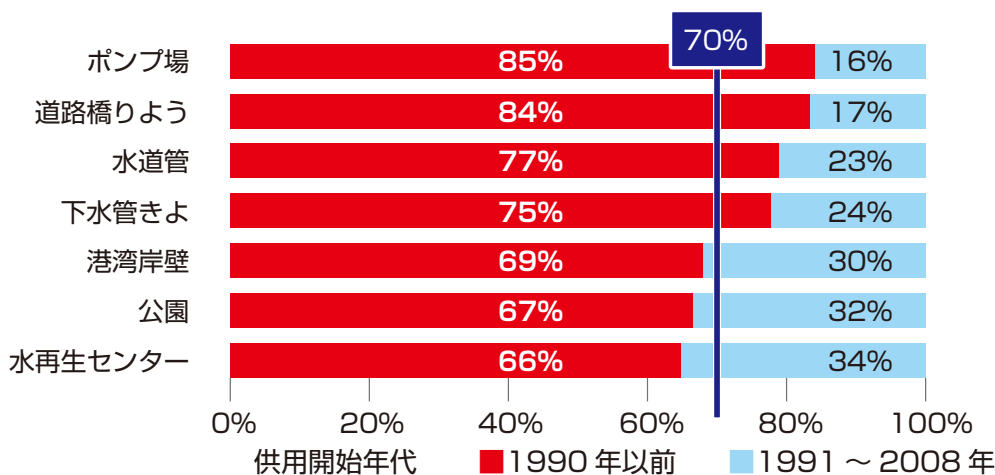
交通ネットワークの変化

広域的には、首都圏中央連絡自動車道（高尾山インターチェンジから相模原愛川インターチェンジまでの区間）の開通により、東名高速道路や中央自動車道などを結ぶネットワークが形成されたことに加え、羽田空港のさらなる国際化や2027年の中央新幹線（リニア）の開業が予定され、市内では、神奈川東部方面線の開業や横浜環状道路（北線、南線、北西線）、横浜湘南道路の開通が予定。こうした交通ネットワークの変化により、横浜を取り巻く人やモノの流れが大きく変化していくことが見込まれます。この変化をチャンスととらえ、地域特性に合わせた機能強化や産業拠点の形成などを図るため、適切な土地利用誘導などを行っていくことが必要。

都市インフラの老朽化

人口急増期に集中して整備してきた多くの都市インフラが老朽化を迎えることや、社会変化により新たな機能が求められている中で、都市の持続的な成長・発展のためには、骨格となる都市インフラの効率的・効果的な保全・更新や未来に向けた整備が必要。

都市インフラの約7割が2030年までに供用開始から40年以上に



(資料：財政局「横浜市公共施設の保全・利活用基本方針」)

■グローバル化の進展、産業構造の変化

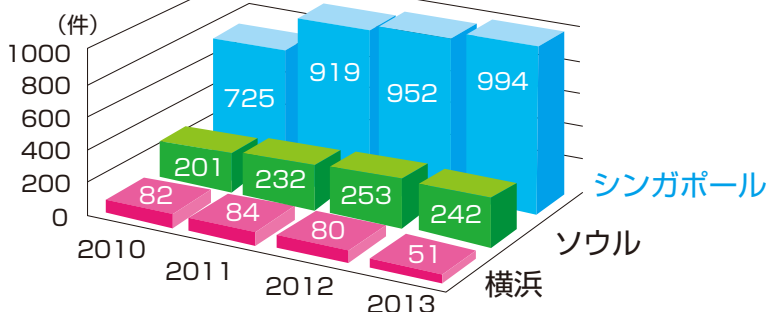
グローバル化の進展や産業構造の変化が加速する中で、国内外からの企業誘致を促進していくとともに、市内企業が「健康・医療」や「環境・エネルギー」などの新たな成長・発展分野を軸として、国内外において元気に活躍できる仕掛けづくりが必要。例えば、健康・医療分野においては、本市に集積している医療機関等をネットワーク化し、国際競争力のある臨床試験実施体制を確立させ、先進的医療や創薬につなげていく必要があります。また、横浜が海に接して発展してきた地理的特性を踏まえ、昨今の海洋に関する企業や大学等での先進的分野の取組を、横浜の強みとしていかしていく必要があります。

■都市間競争の激化

都市間競争の激化や広域的な交通ネットワークが変化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、国際都市横浜の顔である都市臨海部の機能を強化するとともに、文化芸術や観光・MICEなどの振興、街の魅力や賑わいづくりにつながる緑の創出により、企業誘致や観光誘客の促進を図る必要があります。

国際会議件数における世界との差

(資料：UIA (国際団体連合)「国際会議統計」)

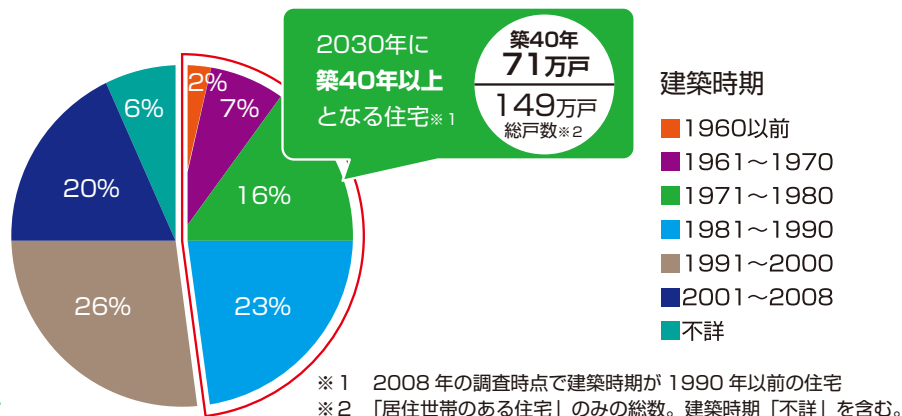


■郊外部の活力低下

大規模団地をはじめとする住宅の老朽化など、活力の低下が懸念される郊外部においては、地域の特性をいかしながら民間事業者との連携などにより、時代の変化に柔軟に対応し、安心して快適に暮らすことのできるまちへと再生していくことが必要。

2030年には、約半数の住宅が築40年以上に

(資料：総務省「平成20年住宅・土地統計調査」)



■自然災害への備え、エネルギー問題

東日本大震災などにより災害に対する意識や、省エネルギーや再生可能エネルギーの重要性が高まっていることを踏まえ、都市の防災機能の強化などにより未来への備えを万全にしていこうことや、低炭素なまちづくりを推進していくことが必要。

■戦略的・計画的な土地利用

横浜が将来にわたり持続的に発展していくためには、横浜の豊かな緑を保全し良好な都市環境を未来に引き継いでいくとともに、市域のバランスある発展に配慮しながら、メリハリのある土地利用を図る必要があります。特に、市街地調整区域の中でも、鉄道駅周辺や高速道路インターチェンジ周辺においては、今度整備される都市インフラを考慮しながら、適切な土地利用誘導が必要。2025年には、団塊世代が75歳を超え、高齢者が約100万人と大幅に増加する一方で、子育て世代の減少や出生数の低下などにより、労働力や消費の減少、さらには社会保障費の増加、福祉や医療サービスなどの需要の増大が見込まれる。こうした中で、都市の活力を維持していくためには、子育て環境の整備をはじめ、未来を担う子供・若者の育成、経済成長の鍵となる女性がいきいきと社会で活躍できる環境づくり、そして経験豊富なシニア世代のスキルなどが十分に発揮される場の創出などにより、あらゆる世代がポテンシャルを十分に発揮できることが重要となります。また、ポテンシャルを発揮していくための基礎となる健康づくり、高齢者だけでなく、あらゆる世代が取り組むことのできる社会づくりが必要となります。

人づくり、まちづくり、幸せづくり！

この3年8ヶ月市議員として活動をしてきて、まだまだやりきれない事がたくさんあります。子育て中の母親として、子育て環境の整備をはじめ、放課後の居場所も含めた学校教育の充実、ひきこもりなどの困難を抱える若者支援等、未来を担う子供 若者の育成。働く女性として、経済成長の鍵となる女性がいきいきと社会で活躍できる環境づくり。そして横浜の経済再建。家庭を守る主婦として、子育て世代の減少や出生数の低下などにより、労働力や消費の減少、さらには社会保障費の増加、福祉や医療サービスなどの需要の増大など。また金沢区内では、金沢区役所・公会堂の整備や金沢八景駅前の土地区画事業や小柴貯油地後の公園計画等大きな事業が進められており、南部市場や市の保養所であったログ金沢跡地活用についての今後の検討など。今年も愛する横浜、そして金沢区の為に、市民の皆様が安心して暮らしていけるよう活動して参ります。